

## 「マタイ 26章後半」

### イントロ:

1. 文脈を確認する。
  - (1) 時代(ディスペンセーション)が移行しようとしている。
    - ①律法の時代から恵みの時代への移行。
    - ②各ディスペンセーションには、土台となる契約がある。
    - ③律法の時代の土台は、モーセ契約。
    - ④恵みの時代の土台は、新しい契約。
    - ⑤イエスの十字架の死によって新しい契約が結ばれる。
  - (2) イエスの死が有効になるための2つの条件。
    - ①過越の祭りの間に死ぬ。
    - ②十字架にかかって死ぬ。
  - (3) イエスの逮捕は、予定よりも早くやって来た。
    - ①ユダを促すイエス(ヨハネ 13:26~31)。
    - ②イエスの裁判は、大混乱の中で行われた。
2. 26章後半の中心は、ゲツセマネの園の祈り。
  - (1) ルカ 22:44 の記述に注目。血の汗を流すイエス。
  - (2) イエスの苦しみの内容を確認する。
3. きょうの箇所は、私たちににとってどういう意味があるのか。
  - (1) イエスの苦しみが私たちに何をもたらしたのかを知る。
  - (2) イエスの祈りから模範を学ぶ。

### イエスの苦しみの内容を、部分ごとに分けて確認する。

#### I. 弟子たちのつまずきの預言 31~35節

1. ゼカリヤ 13:7の預言。この預言は、その夜に文字通り成就する。
2. 甦りの預言。
  - (1) 甦って、先にガリラヤに行く。
  - (2) この約束は、弟子たちに無視された。
3. ペテロの自信満々の告白。
  - (1) 無理解に基づく熱心さ。
  - (2) 彼をめぐって霊的戦いが繰り広げられることを知らなかった。

4. イエスの預言。
  - (1) マルコ 14:30 「鶏が2度鳴く前に、わたしを知らないと言います」
  - (2) 1度鳴きは夜中の12時、2度鳴きは午前3時。
5. ペテロだけでなく、弟子たち全員が忠誠を誓った。
  - (1) イエスの心を理解しない弟子集団。
  - (2) 唯一の例外は、ベタニヤのマリア。

## II. ゲツセマネの園 36～45節

1. ゲツセマネの園
  - (1) ケデロンの谷にあるオリーブ園
  - (2) 「油絞りの場」
  - (3) イエスがいつも弟子たちと退いていた私的空間。
2. 出来事の進展
  - (1) 8人は見張り役に残される。
  - (2) 3人(ペテロ、ヤコブ、ヨハネ)はイエスに付き添う。
  - (3) イエスはその3人に命令を与える(38節)。
  - (4) イエスは、3人から離れた所で祈る。
  - (5) 祈りの模範。
    - ①わが父よ。
    - ②できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。
    - ③しかし、…あなたのみこころのように、なさってください。
  - (6) 1時間後、3人のところに戻ると、彼らは眠っていた。
    - ①靈的無防備。
    - ②それゆえに、サタンの試みに屈する。
  - (7) 2度目の祈り。内容は同じ。彼らはまたもや眠っていた。
  - (8) 3度目の祈り。内容は同じ。彼らは最後まで眠っていた。
  - (9) イエスの逮捕。「時が来た」。
3. イエスの苦しみの内容
  - (1) イザヤ書 49:1～13 メシア預言
  - (2) 3つの重要な預言
    - ①ユダヤ人たちはイエスをメシアとして信じなかった。  
神からの慰めが与えられる(ルカ 22:43)。
    - ②異邦に救いが提供される。「諸国の民の光」。
    - ③ユダヤ人も最終的には救われる。
  - (3) この構造は、ローマ9～11章の内容と合致する。

## 4. 「杯」の意味

(1) 肉体の死のことか。

- ①天地創造の前から、神の御子が十字架に付くことは定まっていた。
- ②イエスは自らの受難を知り、それを何度も預言していた。
- ③そのために誕生したのに、過ぎ去らせてくださいと祈るのはおかしい。

(2) 怒りの杯のことである。

- ①旧約聖書では、「杯」は祝福と怒りを表す比喩的言葉。
- ②この文脈では、「怒りの杯」のこと。
- ③罪の贖いのためには、血を流すだけでよい。
- ④ここに至って、「怒りの杯」を飲むことが分かる。霊的死を経験すること。
- ⑤私たちは霊的死を経験していたが、イエスはそうではない。
- ⑥永遠の昔から父なる神と子なる神とはひとつである。そこに、亀裂が入る。

(3) IIコリント5:20～21 「罪を知らない方を、罪とされた」

## III. イエスの逮捕 47～56 節

1. 群集の目に付かない所での逮捕。
2. ユダが案内役。
3. 祭司長、民の長老たちから送られた役人と、ローマ兵(400～600人)。
4. ユダはイエスに何度も口づけした。
5. ペテロは大祭司のしもべの耳を切り落とす。
  - (1) 大祭司は、過越の祭りの期間は動けない。
  - (2) ペテロは忠誠を示そうとした。
  - (3) 数百人の兵士を前に、剣1本で戦うのは不可能。しかも、ペテロは兵士ではない。
  - (4) 信仰を守る戦いでは、剣は役に立たない。
6. イエスは、自発的に逮捕された。
7. 弟子たちは、みな逃げてしまった。祈りの準備ができていなかった。

## IV. イエスの裁判 57～68 節

1. ユダヤ人による宗教裁判とローマ人による政治的裁判
  - (1) ユダヤ人には死刑を執行する権利が認められていない。
  - (2) 宗教裁判では冒とく罪を立証し、政治的裁判では反逆罪を立証する必要がある。
2. 出来事の進展。
  - (1) カヤパの官邸にサンヘドリン(ユダヤ議会)が招集される。律法違反。
  - (2) 71人の議員がいたが、議会は最低23人で成立する。
  - (3) 急な召集だったので、少数の出席。ニコデモとアリマタヤのヨセフは欠席。
  - (4) 偽証を求めたが、うまくいかない。

- (5) 最後の2人が、証言する。神殿の破壊は、ローマの法廷でも死刑に値する。
- (6) カヤパは神の御名によって、イエスが証言するように命じた。黙秘権を行使できない。
- (7) イエスの答え
  - \* イエスは神であり、人である。
  - \* 復活と昇天の預言。
  - \* 再臨の預言。
- (8) カヤパによる有罪宣言
  - \* 神への冒瀆だ。
  - \* まだ証人が必要でしょうか(証人はもういないのに、こう豪語している)。
- (9) 全会一致の決定
  - \* 本来は無効。
  - \* 事前工作があったと考えるから。
- (10) 議員たちは、イエスを侮辱した。

## V. イエスを否むペテロ 69～75 節

1. ペテロはイエスの後を付いていった。
2. ヨハネは大祭司の知り合い。ペテロを中に入れてもらう。
3. ペテロは3度イエスを否む。
  - (1) 調子は徐々に強くなる。
  - (2) 「のろいをかけて誓う」。「のろい」は動詞。目的語はイエス。
4. 鶏が2度目に鳴く。
  - (1) 午前3時ごろ。
5. ルカ 22:61 にあるイエスの眼差し。
6. ペテロの悔い改め。

## 結論

1. イエスの苦しみを理解する。
2. イエスの赦しを受け取る。
  - (1) 私たちが罪びとであった時に、神は私たちを愛してくださった。
  - (2) 反省ではなく、悔い改めが必要。
3. 赦しを実践する生活を始める。
  - (1) 和解は、被害者が加害者を赦すところから始まる。
  - (2) 「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく」